

(別記)

2021 年度大野市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

(1) 現状

大野市は県内最大の面積を保有し、水田は県内3番目の面積約3,908haを有している。本市の農業は、肥沃な農地と豊かな水資源に恵まれた良質米の産地であることから、主に稲作を中心に発展してきた。穀類では、他にも本市で生産された六条大麦や県の推奨品種となっている「大野在来種」のそばは高い評価を受けており、大豆については積極的に栽培を推進し、転作作物として定着している。また、園芸に関しては、市の特産である里芋、ネギ、ナス、菊、穴馬スイートコーン、穴馬かぶら等の特産作物栽培を積極的に推奨している。さらに、有機JASや県特別栽培農産物認証制度など環境調和型農業への取組を推進しており、越前おおのブランドとして安全で安心な農産物の販路拡大を行い、作付面積の拡大に取り組んでいる。

また、大野市道の駅「越前おおの荒島の郷」への園芸作物の安定供給に向けて、園芸作物の生産拡大に取り組んでいる。

(2) 課題

本市では水稻を農業生産の基幹としながら、麦、そば、大豆、飼料作物等の生産拡大・品質向上と、野菜及び花卉等の高収益作物を積極的に導入し、農地の高度利用と農業の複合経営化を図る必要がある。また、農業における自然環境への負荷の削減と消費者の求める安全・安心な農産物の生産に努めるとともに、道の駅「越前おおの荒島の郷」への出荷もふまえながら、加工食品の開発等による農産物の消費拡大や六次産業化の推進により、所得の増大や地域ビジネスの新たな展開等産業の創出を図っていくことが課題となっている。

また近年、農村の過疎・高齢化、農家・非農家の混在化、兼業化の進行により、土地・水といった地域資源を管理してきた集落機能の低下が懸念され、地域の農業生産そのものの維持が危惧されている。今後は、自主性と創意工夫、自己責任と経営感覚を持った優れた経営体の育成及び既存の農業経営体の基盤強化が重要となるとともに、集落機能を担う地域自らが知恵を出し合い、地域の協力体制のもと農地の集団化と経営の広域化を図っていくことが課題といえる。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

市の特産である里芋・菊・ナス・穴馬スイートコーン等の特産作物の作付を拡大し、さらに生産量の維持、拡大に努める。特に里芋については、GIを保護する産品として登録されていることなど付加価値があることから、農業者の生産意欲と作物の品質向上、所得の増大を目指し低コスト生産への取組へ支援する必要がある。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

地域の効率的土地利用に配慮しつつ、野菜等の生産に取り組む農家の経営転換を後押しする。現地確認で水田の利用状況を確認し、集落との話し合いを進め計画的な畑地化の推進に努める

4 作物ごとの取組方針等

市内約3,908haの水田について、適地適作を基本とし農業所得の向上に向け、産地交付金を有効に活用しながら園芸作物の生産維持、拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

生産数量の目安に沿った作付面積を確保するとともに、コシヒカリを中心に高品質米の生産に向けて生産技術の向上を図り、需要動向や集荷業者の意向を勘案しながら米の生産振興を推進する。

また、高品質な主食用米の新品種の作付拡大など、米のブランド化を目指し産地として地位を確保する。

(2) 備蓄米

調整水田や不作付地の解消、また畑作物の作付けが不向きな水田を活用し、一定の生産を確保していく。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

需要に応じた生産促進と農家所得の確保に向け、関係団体等とともに栽培・肥培管理など多収穫技術を検討し、安定した生産を目指す。

イ 米粉用米

用途別基準設定により、米粉の利用を促進し生産を維持する。

ウ 新市場開拓用米

大規模農業法人において、国外の新市場開拓用の米の生産を推進していく。

エ WCS用稲

省力・低コスト化のために、市内の畜産農家と連携を図り耕畜連携による堆肥の活用を積極的に導入し、水田の有効利用を図る。

オ 加工用米

実需業者との結び付きを強化しながら、調整水田や不作付地の解消に向け、生産を確保する。

(4) 麦、大豆、飼料作物

転作作物の主軸として栽培面積の拡大、圃場の排水対策強化、麦+大豆の輪作体系による高品質栽培の生産拡大を図る。

(5) そば、なたね

そばについては、麦の後作として、また市を代表するブランド作物として機械化対応を促進し、ほ場の排水対策を徹底し、収量品質向上に努める。

(6) 高収益作物

地域特産物の生産拡大に取り組み、作付の集団化と生産組織の育成及び価格の安定と販路拡大を図り、農家の所得向上を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	2479.6	2473.0	2461.0
備蓄米	17.7	1.0	1.0
飼料用米	48.2	48.2	48.2
米粉用米	0.7	0.7	0.8
新市場開拓用米	55.6	37.5	37.5
WCS用稲	19.6	19.6	19.6
加工用米	105.2	105.2	105.2
麦	687.6	728.9	729.1
大豆	14.4	14.5	14.7
飼料作物	15.5	15.5	15.5
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0
そば	89.2	89.3	89.5
なたね	0.0	0.0	0.0
高収益作物	124.9	124.9	125.1
・野菜	112.7	113.3	113.5
・花き・花木	10.5	10.0	10.0
・果樹	1.6	1.6	1.6
・その他の高収益作物	0.0	0.0	0.0
その他			
・			
畑地化	0.0	0.0	1.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	(ha)	
				前年度(実績)	目標値
1	里芋	特産作物作付助成	作付面積	(2020年度) 71.16	(2023年度) 71.19
2	里芋	特産作物拡大助成	作付拡大	5.94	5.97
3	菊、ナス、 穴馬スイートコーン	特産作物作付助成	作付面積	菊 9.97 ナス 1.67 穴馬スイートコーン 1.57	菊 10.00 ナス 1.70 穴馬スイートコーン 1.60
4	穴馬スイートコーン	特産作物拡大助成	作付拡大	0.07	0.1